

# 令和7年度 第1回佐賀市高齢者福祉サービス検討委員会 議事録

開催日：令和7年10月28日（火）10時～11時38分

場 所：佐賀市保健福祉会館（ほほえみ館）2F ボランティア室

出席者：岡部委員（会長）、森永委員（副会長）、森永委員、實松委員、時尾委員、  
豆田委員、岡委員、伊東委員

## 【事務局】

牛島保健福祉部長 高齢福祉課 横田課長、池田副課長、加茂長寿推進係長、  
横尾、芦原、吉田、相良

## 【あいさつ】

牛島保健福祉部長

## 【委員紹介】

各出席委員の自己紹介

## 【事務局紹介】

事務局職員の紹介

## 【会長・副会長選出】

会長：岡部委員、副会長：森永委員 を選出

## 【高齢者福祉サービス検討委員会の概要説明】

資料2ページから3ページを説明

## 議題（1）地域における高齢者福祉サービスについて

### 事務局

- ・議題（1）について、資料4ページから15ページにより説明
- ・資料訂正依頼：13ページ金立の事業内容「入浴施設（週4回）」を削除

### 会長

・事務局から説明のあった、佐賀市の高齢者の状況、市内で実施しているサービスまたは団体の活動などについて補足、自身が活動する中での課題や御意見を頂きたい。

### 委員

- ・老人クラブに私が入会した頃は、会員が約1万2千人いたが減ってきた。
- ・会員減少の原因の一つは、高齢者大学でそれぞれ楽しいことを見つけたり、自分の興味のあるサークルで活動したりという方が多い。
- ・高齢であるため、施設に入って亡くなられるといった流れもあり、減少もやむなしというところはある。
- ・高齢者の今の状況として、スポーツ関係だと特にランドゴルフは、地域でもよくやられている。

・元気な人は、本当に楽しんでおられるが、足が弱くなってくると何もできないという意見が現場で出ている。

・80代後半ぐらいの方など、グラウンドでスポーツができない方向けの室内競技「いごてだま」も地域で活発にされている。

・大会をすると地域も盛り上がるということで、どういう形で佐賀市全体の競技にしようかと女性リーダー研修会で検討していて、来年度は何か形にしたいと考えている

・佐賀市社協で推進されている福祉協力員は、自治会長が任命されるという流れがあるが、ほとんど1年交代。見つけるのが大変だということで、大体班長で遠目の見守りをされている。何か異変が見つかったら、民生委員や自治会長に報告をして役目は終わり。地域に応じて福祉の芽が育ってきているという考えで進んでいる。

・一方で老人クラブの友愛活動は、自分たちのクラブメンバーの見守り活動ということで、さらに、家に行って話し込んだりとか、重い荷物をやってあげたり、地域によっては電球交換をやってあげるなどの細かな作業がある。

・老人クラブの活動は、会員に対して福祉協力員以上に手厚くやっていることをもっとPRすれば、会員も増えると思うが、そこまでPRしていない。

## 会長

老人クラブの友愛活動は、クラブ会員に対してしかやっていただけないのか。

## 委員

・基本そうである。

・新規加入のために、旅行に行くからスポーツやるから老人クラブに入りなさいと、具体的に説明せざるを得ない。

・老人クラブの全国的な問題なのだが、関心のない方が多い。

・福岡でも多い「シニアクラブ」への名称変更について、佐賀市の連合会でも今後の課題として動いてはいる。

・同じ年代で同じ悩みが分かる仲間とつながり、自分が歩けなくなっても向こう三軒のメンバーに声をかけられることが重要。そうすれば、安心感のある地域ができるのではないかというのが老人クラブの活動である。

## 会長

・どこの地域でも、老人クラブが減少傾向にあるという問題がある。

・佐賀市内には色々な活動や団体があるので、それらとの競合もあるかと思う。

## 委員

・老人クラブのメンバーも、高齢者大学へ行ったりしている。

・高齢者趣味の作品展も図書館でやっている。

・老人がもっと活躍できるようにと国や県から補助金をもらっているが、会員減少はやむを得ないところと考える。

## 委員

- ・資料 11 ページ「自分らしく自立した生活のために」の 1 番最初に「仕事」があるが、友達は働きたいけど仕事がないと言っている。
- ・1 つ目の質問は、高齢者の仕事に関する施策を市でどのように展開されているのか。
- ・今日の佐賀新聞の中で、佐賀県シルバー人材センターが介護施設へ人材派遣できるようにすることを考えている記事に注目した。人手が少ない介護施設へ食事の手伝いなどに高齢者を派遣するといった施策は大事。
- ・2 つ目の質問は、資料 1 4 ページの「地域版元気アップ教室」、1 5 ページの「高齢者ふれあいサロン」。いずれも数が減っているが、こういった理由なのか。

## 事務局

- ・高齢者の仕事に関して、まず一つは、シルバー人材センターがある。
- ・もう一つは、今年の 9 月から立ち上げた、シニア活動のマッチングサイト。これはウェブ、インターネットを使って仕事の紹介をしている。
- ・始めたばかりで、周知が少ない部分と仕事の案内件数が少ないが、高齢者の向けの仕事やボランティア、イベント等を紹介して、参加いただくといった取組を今年から始めている。
- ・地域版元気アップ教室は、1 0 人以上のメンバーを集めて、地域で教室を継続的に開いていただくという取組。
- ・おたっしや本舗にも御協力いただきながら、参加していただくよう働きかけをやっているが、なかなか教室参加まで至らないところもある。
- ・これまで 120 団体が教室を終えて自主グループに移行しており、参加したことのないグループに声をかけているという状況であるため、減少している。
- ・高齢者ふれあいサロン数と参加者数の減少について。参加者の高齢化と協力者（世話人）がなかなか見つからないことが主な原因。
- ・今年の 7 月に、サロンのやり方などを地域に出向いて御案内するという内容を、自治会で班回覧をした結果、手を挙げるところが新たに 3 つ出てきた。引き続きしっかり周知していきたい。

## 事務局

- ・地域の活動などをいろいろと支えていく上で、何か課題があれば、ご意見いただきたい。

## 委員

- ・地域版元気アップ教室で、1 0 人以上という参加条件がある。やりたいけど、5・6 人だったら声をかけられるが、1 0 人集めるのが難しくて実際立ち上げに至らなかったことがある。
- ・長年続いたグループも、参加者の高齢化により自治公民館への移動も難しくなってきた、教室を閉じられたところもある。
- ・自主グループには代表や会計、毎年報告書の提出が必要であることを、グループに対して市の社協や自治会長と一緒に説明に行くと、世話人さんが負担に感じて、立ち上げを断念するところもある。
- ・退職後、今までお世話になったからということで地域に関わっている方もおられるが、第二の

人生ということで新たな仕事を続けている方もおられる。

- ・一概にどのぐらいの年代だったら地域の担い手として来てもらえるというのは以前と変わってきて、多様化してきているのではないかと思う。
- ・地域のサロンなどの活動をやりたいときに、自治公民館での活動というイメージがあるが、自治公民館がない鍋島校区内の自治会では、おたっしや本舗鍋島の事務所が入るビルの会議室で活動されているところもある。

#### 副会長

- ・(元気アップ教室や脳いきいき健康塾を) 実施する側としては、送迎する時のタクシー会社のタクシーの台数が不足していて、調整が難航したことがあった。
- ・市の事業を10年以上受託しており、職員もスタッフも順調に活動できていると思う。

#### 会長

- ・事業を実施する中で、じかに高齢者の方から、改善してほしいことや、コロナ禍でも地域で取り組んでほしいといった意見はあるのか。

#### 副会長

- ・佐賀市のほうで参加者にアンケートなどをとってもらったら、受託者である我々にもフィードバックしてもらい、持続可能な事業にしていきたい。

#### 会長

- ・いきがい館のサービスを利用してみて、どんな感じで1日過ごされているのか。いきがい館への要望はあるか。

#### 委員

- ・今、週4回、利用しているが、利用者はひとり暮らしの方が多いようである。
- ・お風呂は11時からの利用開始だが、早い人は10時から来てお話ししたりされている。
- ・1日、男女合わせて約30名。
- ・自宅にお風呂がないのではなく、早く来てお話を楽しむ人が多いようである。
- ・私も10時半ぐらいに行って、週にほぼ4回行っている。

#### 会長

- ・利用者は何時ぐらいまで過ごされるのか

#### 委員

- ・私は10時に入館して11時に入浴して11時半には出ていく。昼食に自宅に帰って、それからは行かない。
- ・他に引き続きお話しされている人は、昼食を食べて過ごしていると思う。
- ・お話の様子から、おひとり暮らしの方が多いと判断している。

## 会長

・いきがい館では色々なプログラムをやっているという説明があったが、参加されていないのか。あまり魅力を感じないのか。

## 委員

・私の場合は、自宅で介護していた母が亡くなったばかりで、参加する余裕がなかった。

## 会長

いきがい館の1日の来館者はどのくらいで、どんな内容なのか。

## 委員

- ・大和は入浴施設がなく、1日の利用者は30人に満たない。
- ・現在は、巨勢、開成、平松の3つに入浴施設がある。
- ・施設の老朽化とともに大がかりな改装改修が必要ということから、金立、大和は入浴施設とデイサービスを廃止した。
- ・コロナ流行時、利用者がマスクをしていても、本人は行きたくても家族から行くのを止められていた方で、今年ぐらいからようやく利用を再開したという方もおられる。
- ・利用者数は、令和6年度頃からコロナ前に戻りつつある。
- ・サークルの数はあまり減っていないが、それぞれの利用者が減っている。
- ・私は所長になって4年目だが、利用者の顔ぶれがあまり変わらない。
- ・週3回ダンベルで利用されている方がおられるが、そこでお世話をされている方の負担が大きく、メンバーの高齢化によりいろいろお世話や連絡を取り合うといったことが難しいということで、今後は週1回に減らして準備なども交代しながら活動していくというグループもある。
- ・大和ではハーモニカサークルのメンバーが30人と多い。広い会場が必要なのと、楽器も使うので他の施設で受け入れてもらえない。公民館もあるが、活動日である土曜日はほかの団体や行事と重なって、年間を通しての使用がなかなか厳しいため、いきがい館を利用されている。
- ・いきがい館大和が好まれているのは、車の出入りがしやすい点もある。場所はアマンディの北側で川上頭首工のすぐ隣にあるが、入り口が2か所あるような感じで、出るときも見通しがよい。
- ・今、新規で増えているのはマーじゃん。以前は週2回であったが、さらに1回加わった。
- ・ヨガは、コロナのときに利用者が若干減ったが、若い方も少しずつ入っている。その他のクラブは、メンバーが変わらず高齢化している。

## 会長

事業の展開としては、いきがい館が事業への参加者を募集するのか、それとも地域の方がこういう活動をやりたいから事業化しますといったやり方なのか。

## 委員

・いきがい館から働きかけるというよりも、自主活動のサロンに部屋をお貸しするというやり方。したがって冷暖房といった受入れの準備は行いうが、基本的に部屋の準備や道具の持ち込み、

片づけまでは各活動の方が行う。

- ・いきがい館開成を除く4か所は、教養講座を年間通して毎週やっている。
- ・各いきがい館で教養講座の募集人数が30名から50名まで、回数も色々だが、いきがい館の事業として進めている。

## 会長

ご自身や地域の中でのいきがい館の位置づけをどう感じているか。

## 委員

- ・サロンや自治会のお世話のなり手といった話があったが、私は仕事をしたい。可能ならば、ボランティアもしたいので、なかなか地域のそうした活動に参加する時間がとれない。
- ・言われたことは非常に分かるが、一人一人生活スタイルも違うので、感じる生きがいも違うと思う。
- ・私が働く理由は健康と収入。アルバイトであっても少しの賃金になるし、孫に小遣いもあげたい。
- ・埋蔵文化の発掘作業の手伝いをやっていて、趣味と地域の文化にも貢献しているという気持ちがあるが、自分の生きがいや支えになっている。
- ・私の住む地域の自治会長がしょっちゅう自転車で地域を回っておられるように、気持ち、精神的あるいは時間の余裕、体力もある方は自分に適した活動で生きがいを感じているという気がする。
- ・介護になる前の健康体力づくりと大事なものは認知症の予防だと思う。
- ・認知症は私たち誰だって、近い将来になる可能性があるため、認知症になる前の脳トレとか、体を動かすことをもう少し充実したらよいと思う。
- ・配偶者が認知症という方は、常に一緒にいなくてはいけないと非常に困っているので、家庭内での介護者の教室などがあるといいと思う。

## 委員

- ・以前、近所の高齢者の方に「いきがい館にはお風呂があつていいよとか、平松なんかは大学なって勉強になりお友達ができるよ」と誘っていただいたことがあったが、その時は地域活動が多忙になり過ぎて行けなかった。
- ・それぞれの好みによって、色々ないきがい館に行くことができ、とても有益だと感じる。
- ・高齢者がよく働くという生き方で、私が地域活動をする中で見ていると、例えば学校の先生を退職後の1年ぐらいは、義理で自治会長を担い、それ以後は仕事があるからといって地域から外れて、また職場に入っていくという現状がある。
- ・私が地域のサロンなどの役をやっていて面白いのが、最初は嫌だなあと思っても、やっていくうちに自分もその年代になって、同じ悩みを地域の方とお話共有できる場所。
- ・参加者が85歳ぐらを超えると、「危なかけん、骨折するから出ていったら駄目よ」という御家庭が多い。さらにコロナによりサロンに参加しなくなるという流れがある。

- ・いずれ高齢になる若い人にサロンに入ってもらい、協力者の後は対象者となり、地域の輪を作ろうという流れを今とっている。
- ・今まで健康だった方特に男性で、今までお仕事を続けるなど元気でいたため、かかりつけ医を持っていない方が最近増えてきたと、民生委員として活動する中で感じる。
- ・1番心配なのが、今まで病院に行っていない人。かかりつけ医を持ってなくて、八十三、四ぐらいの方もいる。
- ・市は、かかりつけ医を持ちなさいと言われるが、どうしようかという相談が結構多い。
- ・私も健康でかかりつけ医がおらず、健康ひろげ隊に入って、かかりつけ医を持とうと言われたが、去年12月に近所の健康診断ができる病院へ行き、かかりつけ医をどうしようかと思った矢先に9月で閉院となった。
- ・適正なかかりつけ医を見つけ出すのが難しいという話を色々な方から聞いて、自分もこれからどうしようかと悩んでいる。

#### 会長

- ・適正なかかりつけ医はどうやったら見つかるのか。

#### 副会長

- ・かかりつけ医機能報告制度が来年ぐらいから始まる。
- ・かかりつけ医として県に申請した医療機関がホームページ等で公表されるので、誰でも見ることが出来る。

#### 会長

- ・ここまでで話し足りないこととか、資料に関する質問とかはないか。

#### 委員

- ・認知症推進員として免許返納に関わることも多いが、9ページの資料で免許返納の数が減ってきている理由が少し気になっている。
- ・佐賀は車社会で、高齢者が車を手放した途端に活動範囲が狭くなる。
- ・免許の返納も大事だが、安全に乗れる方法は何とかならないのかと思っている。

#### 会長

- ・資料は全国版のデータなのでそこまで追跡ができれば、佐賀県内ないしは佐賀市内の免許返納状況免許返納した後の移動手段のサポートサービス、安全に乗れるための運転講習について、次回に情報提供していただきたい。
- ・では議題1については閉じさせていただき、次の議題2のほうに進めたい

#### 議題（2）その他

#### 事務局

- ・議題（2）について、資料16ページの高齢者福祉サービスに関するアンケートについて説明

## 会長

- ・何か質問や確認はないか。

## 委員

- ・先日の老人クラブの理事会でいただいた資料のことか。

## 事務局

- ・はい。

## 会長

- ・現在、アンケートは回答中ということである。
- ・長時間にわたっていろいろなお話を伺えたと思う。
- ・ほかにないようであれば、これで今日の議事をとじさせてもらいたい。
- ・我々がイメージしている高齢者の第二の人生や社会参加というのが、生活スタイルの多様化に伴って、社会参加というのが地域活動だけでなくになっているというお話が印象的だった。
- ・仕事や居場所など、その辺りを考えていく必要がある。
- ・その中に運動やフレイルなどのいろいろな取組を混ぜながら考えていくことも必要。
- ・今回、いきがい館の話聞いたが、いろんな講座を用意してもらうことや、居場所が必要になってくると思う。
- ・次回の12月の会議では、アンケートの結果とともに、佐賀市の社会参加の場であったり、取組の内容などの情報を提供してもらって、検討を重ねていければと思う。
- ・今回はいきがい館といった、なかなかピックアップされないような高齢者が利用する施設など、多様な生活スタイルが分かったので、どこに高齢者の方が寄っていくのか、市の施設の利用状況を提示してもらいながら、検討していければと思う。

## 事務局

- ・議題（2）について、追加配付資料「佐賀市シニア活動マッチングサイト いくようを使ってみよう」により説明
- ・次回の資料として、高齢者が主に利用している市の施設として、いきがい館と各地域にある公民館の状況を準備することを委員へ確認。委員にご承認いただいた。
- ・次回の会議は12月を予定。後日、委員の皆さまへ開催通知を送付する。